

様式3

令和6年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（40） 学校名 豊田市立東保見小学校

1 テーマ

多文化共生の学校づくり

～かかわり合いを通して、ともに伸びていく子の育成～

2 ねらい

異なる文化をもつ子どもたちが、お互いを理解し、相手の立場や考えを尊重しながら、共に学びを創り上げていく。

3 活動内容

①異文化理解

- ・ポルトガル語を中心とした外国語の蔵書を充実させた。
- ・多言語による各国の絵本の紹介など、日本国籍の児童と外国籍の児童が協力して活動し互いの理解を深める機会を設定した。

②安心・安全な環境づくり

- ・校内整備員による校庭などの環境整備を進めた。
- ・校区、通学路の点検、見守りを地域と協力して行った。

③一人ひとりに対応するための体制づくり

教師と日本語指導員に加え、より多くの目で子どもたちを見守り、一人ひとりに寄り添った支援を充実させた。

- ・心の相談員との面談、長放課を活用した交流、給食時の教室訪問を実施。
- ・相談室、はあとふるラウンジを活用した居場所づくり。

4 成果と課題

①異文化理解

- ・ワールド図書室の蔵書を充実させることにより、絵本を介しての交流が生まれたり異文化への関心が高まったりした。掲示物、展示物をリニューアルし、来室する児童の増加を促した。
- ・日本国籍の児童と外国籍の児童がペアになり、多言語による絵本の読み聞かせを定期的に実施した。この取組について「読み聞かせと一緒にしたことで仲よくなった」「外国の絵本が面白かった。もっと他の本も友達に教えてもらいたい」等、互いの関わりや理解を深めた。

②安心・安全な環境づくり

- ・校内整備員が校庭の環境整備を行ったことにより、1年を通じて安心して活動することができた。特に草木の剪定作業、排水溝の整備をしっかりと行った。
- ・校内整備員が配置されたことにより、校務主任が校舎内の不具合やICT機器の管理・整備などに迅速に対応することができた。これにより、今年度、環境整備不良によるけがはなく、より安心・安全な環境を保つことができた。

③一人ひとりに対応するための体制づくり

- ・心の相談員が配置されたことにより、一人ひとりの子どもへの支援を充実させることができた。相談員への相談からスクールカウンセラーとの面談につなげ、より専門的な支援を継続して受けられるようにできた。給食訪問などの日頃の交流から子どもの悩みをつかみ、担任と連携して支援に当たれた例も多い。相談員が配置されたことで、よりきめ細かにタイムリーな支援を行うことができた。心の相談員、相談主任、担任、四役と連絡ノートを使い常に児童の情報を共有することができた。
- ・学生ボランティアに、特別支援学級と低学年教室、6年生の修学旅行で支援活動を行ってもらった。特別支援学級の児童が、ボランティアの応援を受けて安全に自信をもって活動できた。また、低学年教室では、ボランティアが全体の様子を見守る中で、担任が個別支援をすることができた。修学旅行では、特別支援学級の児童に付き添ってもらい、判別活動など計画通り行事を進めることができた。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- ・ホームページの「特色ある学校づくり推進事業」を行事ごとに更新し、事業に関連する取組などを紹介している。
- ・ホームページで日々の活動を紹介する中で、ワールド図書室での読み語りの様子なども紹介している。